

## これまでの研究会の主な内容

資料 1

回	テーマと主な意見	既存施策のレビュー
第2回	<p><b>【テーマ:地域福祉が取り組むべき課題】</b></p> <p>〈主な意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の要支援者像           <ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり暮らし、あるいは家族がいても支えにならず、その上、地域から孤立していたり、判断能力が不十分等により自ら問題解決に向かうことができない状態にある人々</li> </ul> </li> <li>○地域の問題としてあげられたこと           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度の狭間にある者(地域の要支援者)への対応</li> <li>・ 既存施策では応えきれていないニーズの存在</li> <li>・ 地域の意識から生まれる問題の存在</li> <li>・ 総合的な対応の不十分さから生まれる問題の存在 等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>社会福祉協議会</b></p>
第3回	<p><b>【テーマ:地域の要支援者への支援のあり方について】</b></p> <p>〈主な意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援において必要な視点について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域での自立とは何であるか」を明らかに</li> <li>・ 生活リスクマネジメント、ケイパビリティ支援</li> <li>・ ひとりひとりのつながりをみる、近隣・家族のつながりを切らないように 等</li> </ul> </li> <li>○支援の具体的な方法について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期発見・予防、助けを求めない人に対応、生活全体をずっと見ていく支援</li> <li>・ サービスへのアクセス支援</li> <li>・ サービスと生活の総合性の関係整理</li> <li>・ 要支援が利用者でなくボランティアとして参加する形</li> <li>・ サービス利用に左右されない地域との関係づくり 等</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>民生委員・児童委員</b></p>

回	テーマと主な意見	既存施策のレビュー
	<p>○要支援者を含む地域の人々に対する働きかけ、地域の活動のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助けられ上手教育</li> <li>・ 知識の正しい周知、事前の認識</li> <li>・ 災害時支援等にもつながる日常の顔のみえる関係づくり</li> <li>・ 地域が持つべき機能(発見、相談、見守り等)を情報面から考え直す</li> <li>・ 新しい互酬性の仕組みを考える</li> <li>・ 監視から見守りへ 等</li> </ul>	

## 第4回研究会の論点

【テーマ：地域福祉を進めるためのシステムのあり方について  
～地域福祉をさらに発展させるためにはどうすればよいか～】

○ 地域の範囲をどう考えるか

小地域、声かけ、見守りができる範囲、区域のズレ 等

○ ネットワークをどう作るか

自治体・町内会・NPO・ボランティア等の地域資源 等

○ 見つけにくいニーズをどう発見するか

マンション居住者、孤立・ひきこもり、個人情報保護 等

○ 専門職や事業者との関係はどうあるべきか

専門職によるコーディネート機能 等

○ 活動の拠点について

公民館、空き店舗等の活用 等